

平成28年度 広島県合同輸血療法研修会

「輸血療法に関するアンケート」調査報告

広島大学大学院 医歯薬保健学研究院
田中 純子

平成29年2月18日(土) 広島YMCA国際文化センター 国際文化ホール

回答状況

平成29年1月19日時点

調査対象施設	発送数	回収数	回収率
全体	137	102	74.5%
A H24輸血用血液製剤供給量上位100施設	100	81	81.0%
B-1 以前の調査の調査対象	5	3	60.0%
B-2 以前に研修会参加申込 & 過去3年以内に輸血用血液製剤供給実績あり	32	18	56.3%
B 小計	37	21	56.8%

○過去回答状況

- 平成23年度 : 64/75 [85.3%]
- 平成24年度 : 68/82 [82.9%]
- 平成25年度 : 95/137 [69.3%]
- 平成26年度 : 100/137 [73.0%]
- 平成27年度 : 108/137 [78.8%]

平成28年度 広島県合同輸血療法研修会

「輸血療法に関するアンケート」調査報告

集計結果

102施設 の状況

2. 「輸血療法委員会」について

N=102

「輸血療法委員会」は設置していますか

設置年の回答のあった75施設

全体 N=102: 25.5% (No), 74.5% (Yes), 0.0% (Not recorded)

A: 上位100施設 N=81: 21.0% (No), 79.0% (Yes), 0.0% (Not recorded)

B: その他施設 N=21: 42.9% (No), 57.1% (Yes), 0.0% (Not recorded)

102施設中 76施設 (74.5%) が設置

※ 昨年度 : 75/108施設 (69.4%)

p = 0.0770

2. 「輸血療法委員会」について

設置していると回答した76施設 (102施設中)

「輸血療法委員会」の規定・規約を作成していますか

全体 N=76: 2.6% (No), 94.7% (Yes), 2.7% (Not recorded)

A: 上位100施設 N=64: 1.6% (No), 95.3% (Yes), 3.1% (Not recorded)

B: その他施設 N=12: 8.3% (No), 91.7% (Yes), 0.0% (Not recorded)

※ 昨年度調査 : 97.3%

p = 0.5048

「輸血療法委員会」は年間、何回開催していますか

A: 上位100施設 N=64

※ 昨年度調査 中央値: 6.0 [6-6]

B: その他施設 N=12

※ 昨年度調査 中央値: 4.0 [2-6]

p = 0.0006

2. 「輸血療法委員会」について

設置していない N=26

「輸血療法委員会」設置予定があるか

全体 N=26: 3.8% (2017), 24% (検討中), 72.2% (予定はない)

A: 上位100施設 N=17: 11.8% (2017), 16% (検討中), 72.2% (予定はない)

B: その他施設 N=9: 11.1% (2017), 8% (検討中), 80.9% (予定はない)

p = 1.0000

「輸血療法委員会」を設置しない(できない)理由

1. 不必要 p=1.0000

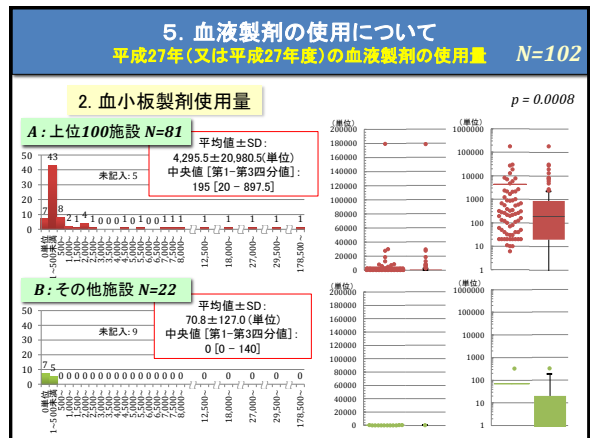
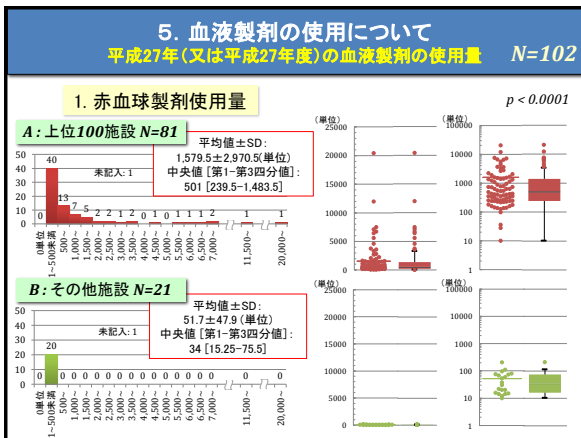
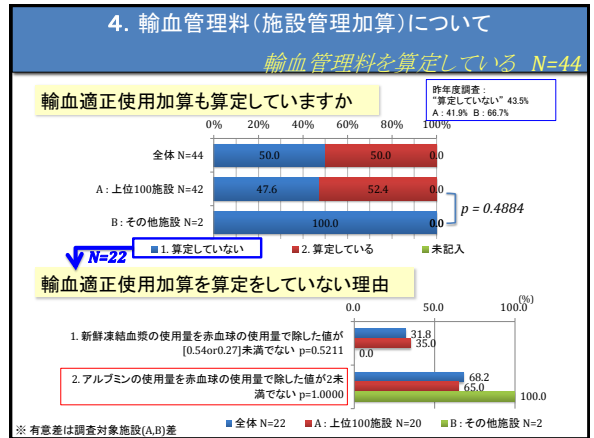
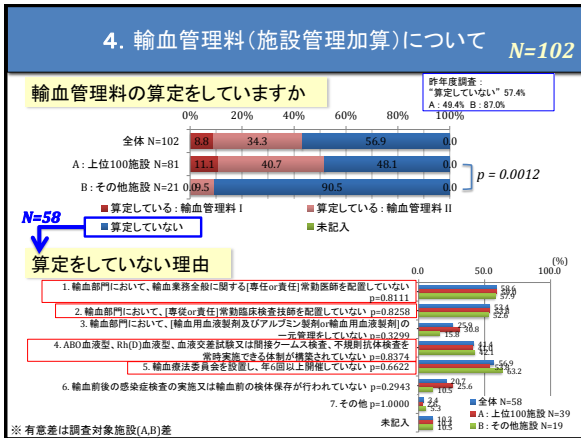
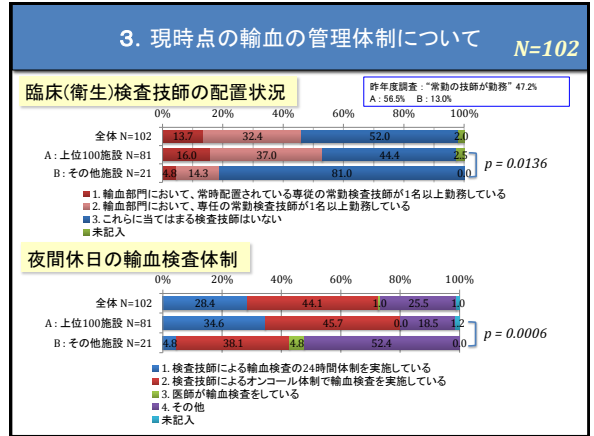
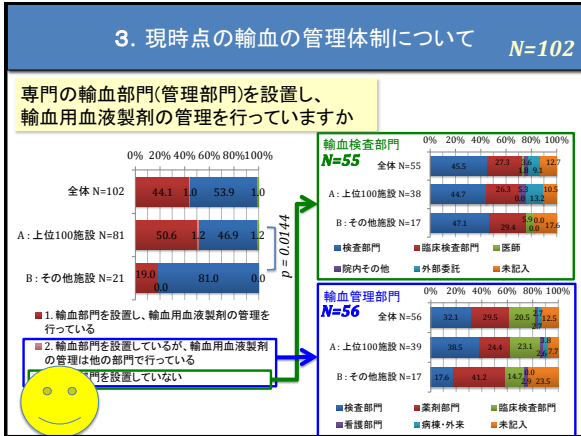
2. どのように設置していいのかわからない p=1.0000

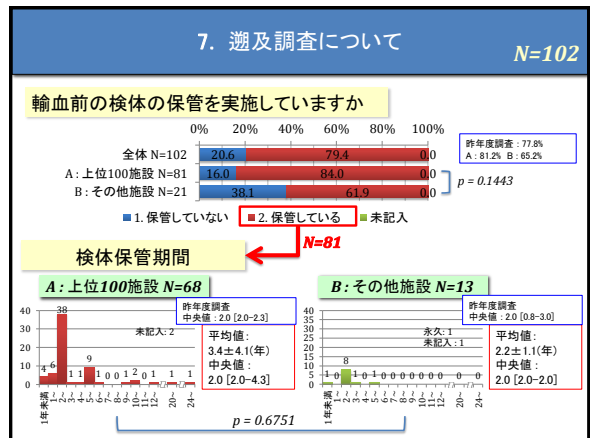
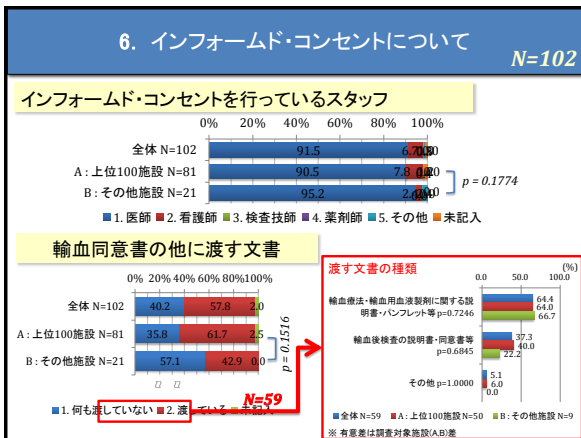
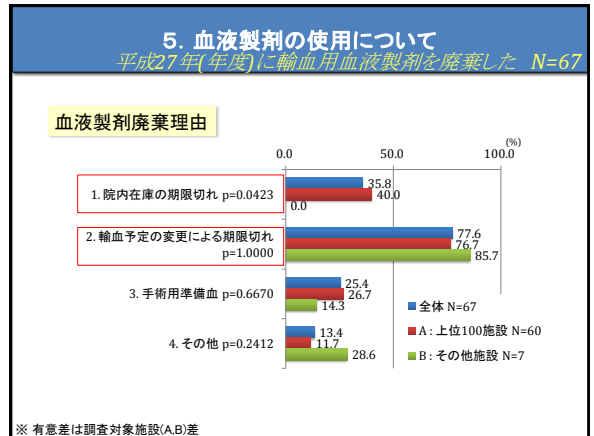
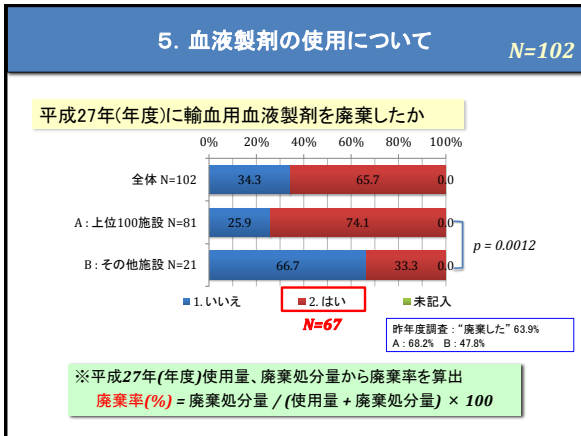
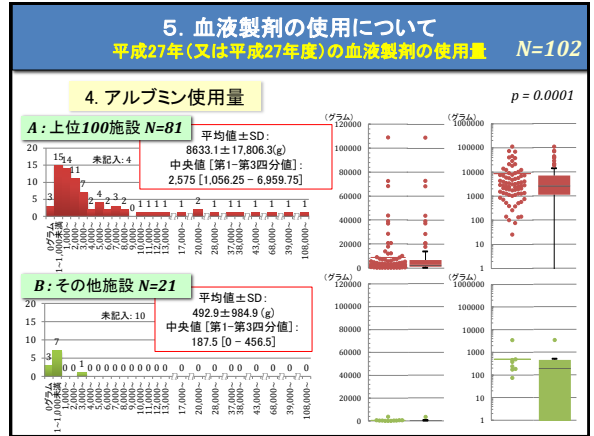
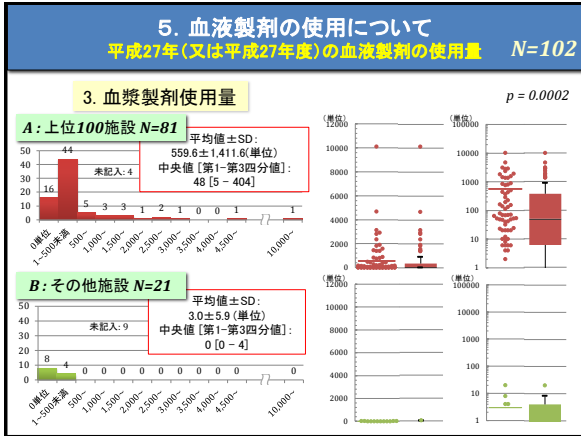
3. スタッフ不足で委員会を構成できない p=0.6466

4. その他 p=1.0000

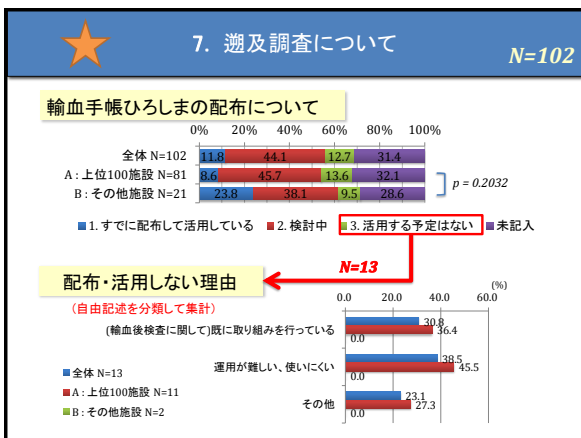
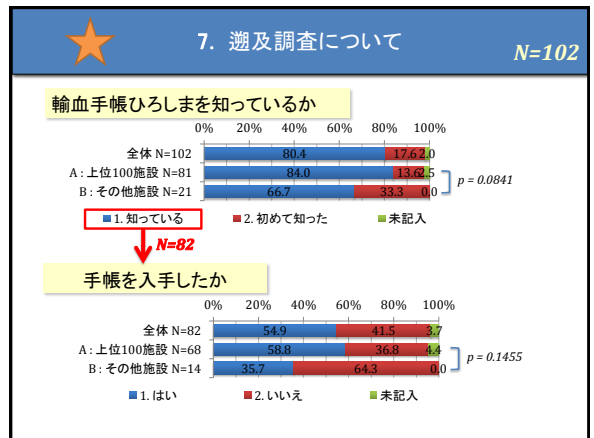
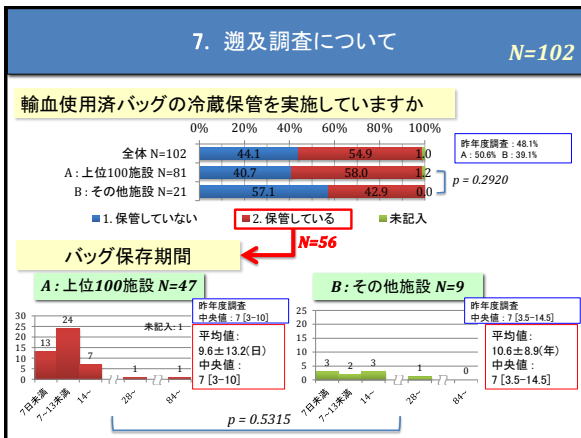
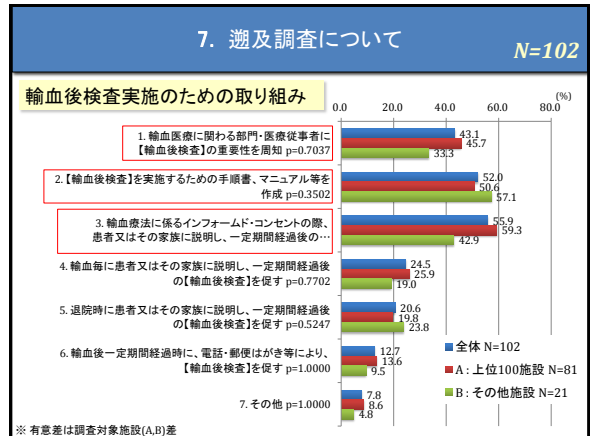
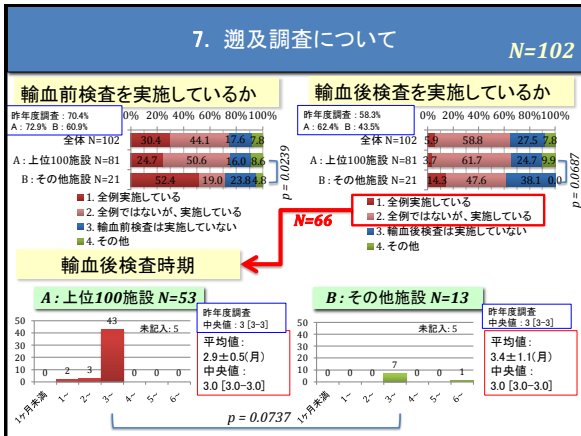
※ 有意差は調査対象施設(A,B)差

「輸血療法に関するアンケート」調査報告





「輸血療法に関するアンケート」調査報告



まとめ

- ❖ 「輸血療法委員会」は対象Aでは79.0%、64施設/H26:74.1%が、対象Bでは57.1%、12施設/H26:52.2%が設置していた。うち71%が年に6回以上委員会を開催し、76%がその機能を果たしていると評価している。設置していない理由は、「スタッフ不足」が71%であった。
- ❖ 専門の輸血部門を設置し血液製剤を管理しているのは対象Aでは50.6%、41施設/H27:43.5%、対象Bでは19.0%、4施設/H27:17.4%であった。設置していない56施設では、検査部門/薬剤部門/臨床検査部門が管理している場合がそれぞれ32%~21%となった。検査部門で検査を行うのは45% (H27:48%)、外注は対象Aで13.2%、対象Bは0%であった (H26:A:3%、B:23.0%)。
- ❖ 輸血管理料の算定をしているのは対象Aで52%、42施設/H27:51%、対象Bで10%、2施設/H27:13%にすぎず、その理由は、「常勤医師・臨床検査技師を配置していない」、「輸血療法委員会を設置し、年6回以上開催していない」が半数を占めた。
- ❖ 輸血管理料算定施設のうち、輸血適正使用も算出したのは52% (H27:57%)、していないのは48% (H27:44%)であった。していない20施設中、68%が「アルブミン使用量を赤血球の使用量で除した値が2未満でない」ことを理由として挙げた。
- ❖ H27に輸血用血液製剤を廃棄処分にしたのは、対象Aで60施設66% (H27:68%)、対象Bで7施設33% (H27:48%)であった。廃棄率は血液製剤 > 赤血球製剤 > 血小板製剤の順であった。廃棄理由としては、「輸血予定の変更による期限切れ」に78%の回答があった。

まとめ

- ❖ インフォームド・コンセントはほぼ医師と看護師によって行われ、58%59施設では輸血同意書の他に“輸血療法・輸血用血液製剤に関する説明書・パンフレット等”や、“輸血後検査の説明書・同意書等”を渡していた。[H27:56%]
- ❖ 輸血前検体の保管をしているのは、対象Aでは84%68施設[H27:81%]、対象Bでは62%13施設[H27:65%]。検体の保管期間は2年が最も多く、保管している施設の6割弱を占めた。
- ❖ 輸血前検査/輸血後検査の実施については、
 - 輸血前検査を実施していないのは18%[H27:22%]、全例実施しているのは30%[H27:32%]に過ぎなかった。
 - 輸血後の検査については、実施していないのは28%[H27:35%]であった。
 - 輸血後の検査を3ヶ月後に実施しているものが最も多かった。
- ❖ 使用済みバッグを冷蔵保管していたのは5.5%[H27:48%]で、そのうちの29%の施設の保管期間が7日未満であった[H27:27%]
- ❖ ひろしま輸血手帳は80%82施設で認知されており、すでに活用しているのは12%12施設であった。

ご協力ありがとうございました。
広島県合同輸血療法委員会